

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立持田小学校）

平成30年9月25日

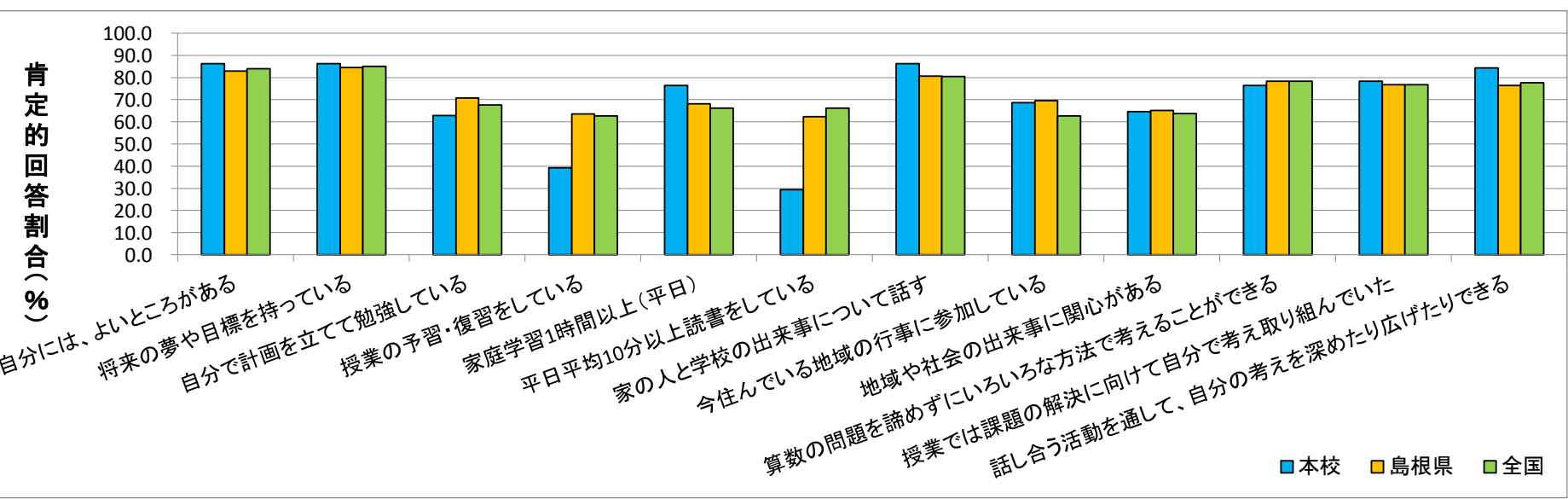
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮ができています。 ●段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができない児童が多い。	・すべての教科において、大事な言葉や文を見つけ、要約する活動を多く取り入れる。 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動を多く取り入れる。
	B (活用)	○選択肢の文章が短く、読み取りやすい設問はよくできている。 ●文末まで読み取ることができない。 ●問われていることが、何か分からない。	・長い文章に親しませるために、授業で音読に力を入れる。 ・宿題として、家庭での読書の時間を意図的に設け、文章理解の基礎を作る。 ・単元に関する図書や課題図書を特設に準備し、日常的に貸し出しができるようなシステムを作っていく。
算数	A (基礎)	○角の大きさや円周率などの図形の基礎的な事項はよく理解している。 ●数量関係の問題を読み取ったり、グラフや数直線を読み取ることができない。	・問題から読み取ったことを数直線や図に表して考える習慣をつける(数学的活動)。 ・考えたことを図などに表して、伝え合う機会を多く設ける。
	B (活用)	○例にならって、同じように理由を説明することについては、適切な言葉や数をあてはめて考えることができる。 ●無解答が多い。問題文を読んだ時点で解き方が分からず、諦めた児童が多いと考えられる。	・問題文で「聞かれていること」に着目するようにさせる。 ・表から規則性に目をつけ、そこから計算方法につなげられるよう、表の読み方について学習する。
理科		○日常生活の中で起こる出来事や身の回りの自然現象と理科の学習内容とを結びつけて考えることができるようになった。 ●複数の情報を関係付けながら分析して考察する力を身に付けるまでには至っていない。	・日常生活の中で起こる出来事や身の回りの自然現象を授業内容とを結びつけた学習指導を今後も継続していく。 ・習得した学習内容や追究方法を活用する場面を、学習過程の中に位置づける工夫をしていく。

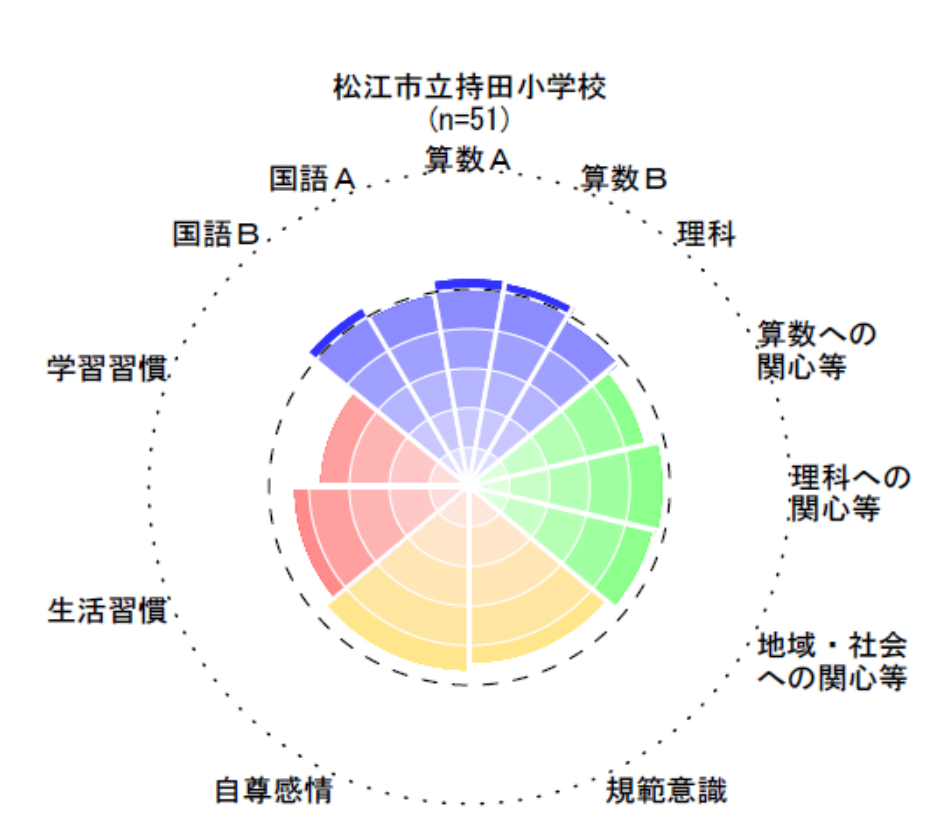
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○話し合い活動に意欲をもって取り組んでいる児童が多い。 ○100%の児童が朝食をとって登校している。 ●予習、復習に充てる時間が短い。 ●授業時間以外に読書をする児童が少ない。	・復習は普段の宿題で取り組んでいるので、効果的な自主学習の方法を指導し、予習への意欲が高まるようにする。 ・児童会活動と連携し、読書活動への意欲が高まるようにする。 ・メディアコントロールウィークでは、振り返りカードなどを活用し、読書の時間を設けるようにする。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・読書に親しんで、読み取る力を育てる。
- ・既習事項について、復習する時間を設定する。
- ・キャリア教育の研究を進める中で、地域と関わることにより、地域のことに関心をもてるようにしていく。
- ・決まりやルールを守ることができるように児童会活動を活用する。
- ・メディアの接触時間が長いので、メディア以外の過ごし方を考えることができる機会を設ける。

【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	70	70	68	70.7
	B	56	57	55	54.7
算数	A	65	62	61	63.5
	B	53	50	49	51.5
理科		59	59	58	60.3

受検者数 51 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。